

授乳室におっさんが侵入。若いママがおっぱいを見られる

「こりゃ上玉中の上玉やんけ」

街中に設置された授乳室の前の、道路のわきに隠れていたおっさんが思わず、ひとりごちる。目を引くような美女が授乳室へと入っていった。

まだ 20 代半ばくらいの若いママだ。

ベビーカーを押して、授乳室の扉を開け、ベビーカーを持ち上げて入っていく。

黒髪ロングの清楚な女性で、とても美人だった。

高そうなコートを着ているが、そのコートの上からでも胸の膨らみが確認できるほど、豊満なものを持ち合わせている。

この後、あの美女がおっぱいを丸出しにして、赤ちゃんに授乳させる。

おっさんはそれを想像するだけでも、卑猥な妄想を繰り広げることができた。

しかし、おっさんはそれだけでは満足しない。

実は、この授乳室は、近所の人たちが、喫煙所代わりに利用していた。

路上喫煙が条例で禁止されたせいで、喫煙者がバレないように授乳室で喫煙をしていたのだ。

喫煙者の中には、当然男も女もいる。

近所の喫煙者にとっては、その喫煙所でタバコを吸うことは日常となっていたのだ。

通常の授乳室として利用する数よりも、喫煙所として、喫煙者が利用することが圧倒的に多くなっていた。

そうなってくると、そこは、もはや喫煙所となる。授乳室の看板が出ているけど、もはや、そこは喫煙所なのだ。

授乳室を設置した市では、そのことにより苦情がいくつか寄せられていた。

『授乳室で喫煙している人がいる』

『授乳室から、なぜか男の人が出てきた』

『授乳室で男性におっぱいを見られた』

そういった苦情が集まっていた。

それでも、喫煙者の方からは、もっと喫煙所を増やしてもらわないと、喫煙できる場所がないと、別の苦情もきていた。

だから、授乳室で喫煙している不届き者を、積極的に取り締まることはできずに、半ば黙認しているような状況だった。

その喫煙所を利用していたおっさんは、ある考えが浮かんだ。

本来の目的である授乳室に入っていった女性の上に、授乳室に入っていくと、おっぱいを見れるのではないかと思ったのだ。

そして、それは成功していた。

授乳室の中は、仕切りやカーテンなどではなく、簡易的な台と、イスが置いてあるだけだった。安全上の観点から、中から鍵をかけることは